

農業用ため池の危険を知り、命を守る行動を学ぶ

－ため池転落事故防止に向けた研修会を開催－

岩手県ため池サポートセンターでは、令和8年7月3日（金）八幡平市西根地区市民センターにおいて、ため池転落事故防止に向けた研修会を開催し、市町村、土地改良区、多面的機能交付金活動組織等から約50名が参加しました。

研修に先立ち、主催者である岩手県農林水産部農村建設課の佐々木伸吾課長が「ため池は、地域農業を支える重要な水源である一方、地震や豪雨の際には災害のリスクを伴う施設でもあります。また、県内においても、草刈り作業中にため池へ転落する事故が発生しており、日頃からの適切な安全管理が重要です。今回の研修を通じて、農業水利施設における水難事故の現状や、事故防止に向けた安全対策について理解を深めていただきたい」と挨拶しました。



【農村建設課】 佐々木伸吾課長



【水難学会】 齋藤秀俊理事

研修の前半は、（一社）水難学会の齋藤秀俊理事（長岡技術科学大学大学院教授）から「農作業時のため池転落の現状と一人でできる安全対策」と題して講義をいただき「農作業事故による怪我人は年間6万人といわれており、そのうち水路やため池での事故は50%を超えている。中でも、草刈り中の事故が77%を占めている」との説明がありました。参加者は、ため池での草刈り作業がいかに危険である

かを再認識していました。

その後、高石野溜池に移動し、実演研修が行われました。水難学会の安倍淳理事を講師に迎え、ため池での転落事故を想定した実演では、スタントマンが実際にため池へ転落し、転落時の対処方法、救助方法のポイント、脱出器具等を使った這い上がり方などについて紹介されました。参加者は真剣な面持ちで説明に耳を傾けており、ため池の安全対策に対し、関心の高さがうかがわれました。



【水難学会】 安倍淳理事

今後も、岩手県ため池サポートセンターでは、ため池の危険性について周知を図り、転落事故ゼロに向け、安全対策等に関する啓発活動等に取り組んで参ります。

